

# 平成 29 年度 第 6 回柿崎区地域協議会次第

日時：平成 29 年 9 月 9 日（土）午前 11 時 30 分

場所：柿崎コミュニティプラザ 305～307 会議室

## 1 開 会

## 2 会長あいさつ

## 3 会議録署名委員の指名

## 4 自主的に審議する事項

(1)柿崎区保育園にかかる課題と今後について

## 5 協議事項

(1)頸北地区地域協議会委員合同研修会について ……[資料No.1]

(2)柿崎区地域協議会視察研修について ……[資料No.2]

## 6 その他

・第 7 回柿崎区地域協議会の開催日について

日 時：平成 29 年 月 日( ) 時 分～

会 場：

## 7 閉 会

## 平成 29 年度頸北地区地域協議会委員合同研修会 開催要項

## 【目 的】

大潟区、頸城区、吉川区、柿崎区の地域協議会委員が一堂に会し、共通のテーマによる研修(有識者などによる講義など)を行うとともに、日ごろの活動状況などについて情報交換することを目的に開催する。

【日 時】平成 29 年 9 月 29 日 (金) 午後 2 時から

【会 場】柿崎コミュニティプラザ

## 【内 容】

○第 1 部 分科会 (テーマ別意見交換) 及び全体会

14 : 10 ~ 15 : 10 分科会

15 : 10 ~ 15 : 40 全体会

・分科会のテーマ

①地域活動支援事業の取組みについて

②自主的審議事項や地域を元気にする提案事業の取組みについて

③他団体と地域協議会の関係について

概要：分科会では、テーマについて各区の取組みをお聞きして意見交換を行います。その後、全体会で分科会で話し合った内容を発表していただきます。

○第 2 部 講演会

・講演テーマ：地域自治区制度をより充実させるために

15 : 50 ~ 17 : 15 (質疑含む)

・講 師：福島大学 人間発達文化学類 牧田 実 教授

(平成25年度・上越市地域協議会検証会議委員)

○懇親会 17 : 30 ~

会場：元問屋 (住所：柿崎区柿崎 6299 ☎ : 536-2322)

会費：5,000 円

## 【出席者(見込み)】

・柿崎区地域協議会 (長井洋一会長) 16 人

・大潟区地域協議会 (佐藤忠治会長) 16 人

・頸城区地域協議会 (井部辰男会長) 16 人

・吉川区地域協議会 (片桐雄二会長) 14 人

委員合計 62 人

・各区事務局 (各区所長、事務局 2 名程度)

(裏面に続く)

## 【日 程】

時間	内容	補足
研 修 会 司会：柿崎区地域協議会 小出副会長		
14：00	開会	開会宣言
14：00	開会挨拶	柿崎区地域協議会 長井会長
14：10～15：10	第1部：分科会	テーマ別意見交換
15：10～15：40	第1部：全体会	
15：40～15：50	休憩	
15：50～17：00	第2部：講演会	地域自治区制度をより充実させるために
17：00～17：15	質疑応答	
17：15	閉会挨拶	大潟区地域協議会会長（次回開催区）
17：15	閉会	閉会宣言
懇 親 会 司会：柿崎区地域協議会 小出副会長		
17：30	開会	開会宣言
17：30	開会挨拶・乾杯	頸城区地域協議会会長
17：30～19：30	懇親	
19：30	閉会挨拶・万歳	吉川区地域協議会会長
19：30	閉会	閉会宣言

## 【送 迎】

○往路（市マイクロバスを運行します。）

ルート1（吉川区）			ルート2（頸城区・大潟区）		
13：30	吉川区総合事務所	発	13：05	頸城区総合事務所	発
	↓			↓	
13：45	柿崎区総合事務所	着	13：25	大潟区総合事務所	発
				↓	
			13：45	柿崎区総合事務所	着

○復路（懇親会場マイクロバスで）

懇親会終了後、各総合事務所までお送りします。

## 【その他】

・委員費用弁償は、各区予算で対応

## 【平成29年度 幹事】

柿崎区地域協議会

事務局：柿崎区総合事務所 総務・地域振興グループ 唐澤・長井

電話 025-536-6701 FAX025-536-3850

## 柿崎区地域協議会視察研修（案）

## テーマ

- ・空き家活用と、定住人口増加策についての研修

## 目的

- ・空き家や人口減少、若者がいない等の課題について、国や県が進めている移住定住人口増加策を、先進地の事例から学ぶ。
- ・多様な情報や知見にふれ課題解決のスキルアップを図る。

## 視察先

## ①富山県射水市

## ○六角堂

- ・富山県射水（いみず）市の新湊地区は、日本海に面しておだやかで風光明媚な地域。
- ・オーナーの明石博之さんは、広島県尾道市出身の43歳。妻の故郷である富山市に4年前、Iターンした。
- ・明石さんは東京でまちおこしのプロデュースを手がけていた。まちづくりに足りない情報、場所、モノ、人は、すでにその土地に用意されていることが多い。それを見つけ、足りない隙間にあてはめる。カフェをはじめたのも、まちに賑わいを生む拠点をつくろう、との発想から。

## ○移住交流滞在施設

- ・都市部で暮らす団塊世代らに田舎暮らしを楽しんでもらい、定住につなげようと、同市は移住交流滞在施設「たてがみ」を丘陵部の青井谷地区に開設した。
- ・同市では、地方回帰の機運やマルチハビテーション・ニーズ（都市と田舎を行き来する生活への欲求）の高まりなどに対応するため、移住交流促進事業「からだひとつでこられ！射水でまっとうちゃ！！」を推進し、移住交流滞在施設を開設した。川沿いに家が建ち並ぶことから“日本のベニス”と地元の人が呼ぶ内川周辺での古民家の暮らし体験が好評。

## ②十日町市

### ○ギルドハウス十日町（十日町市津池）

- ・美しい棚田が残る自然豊かな中山間地域で、古民家をセルフリノベーションした。
- ・大地の芸術祭の里で、地方への試住・移住、多拠点居住を実践した。
- ・西村治久さんが、平成 27 年 5 月に新潟県十日町市へ移住し、築 100 年の空き家を再生して、住み開きの古民家「ギルドハウス十日町」を設立。

### ○竹所シェアハウス（十日町市松代竹所）

- ・インターン生や移住希望者など、十日町市に興味を持ってくれる人がお試しで住む拠点として活用している。
- ・ドイツ人の建築家カール・ベンクスさんが古民家をシェアハウス、農家民宿などに改装して、農業体験を通して都会との交流を図り、移住者等を受け入れることにより地域の活性化を図る活動を展開している。